

あかぎ通信 No.13

あかぎ会議(第9回)を開催

令和6年3月6日(水)に県立赤城公園ビジターセンターのレクチャールームにおいて、「あかぎ会議(第9回)」を開催しました。

当日は、地元と自然環境団体等の方々22名にご参加いただきました。

あかぎ会議(第9回)の概要

- 1 開会・挨拶
- 2 実施設計の説明
- 3 景観ガイドラインについて
- 4 利用料金について
- 5 その他情報提供

日時：3月6日(水) 14:00~15:45
場所：県立赤城公園ビジターセンター
レクチャールーム
参加者：8名(地元の方々)
14名(自然環境団体等の方々)

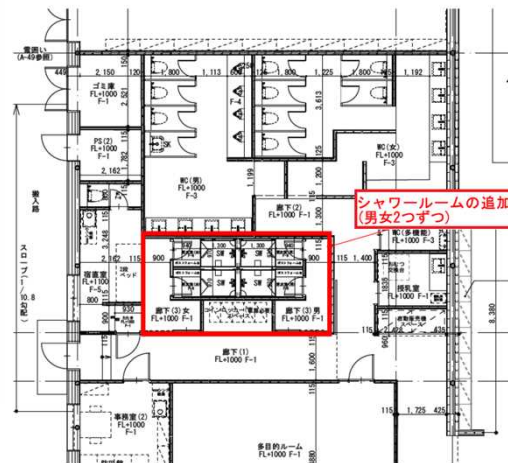
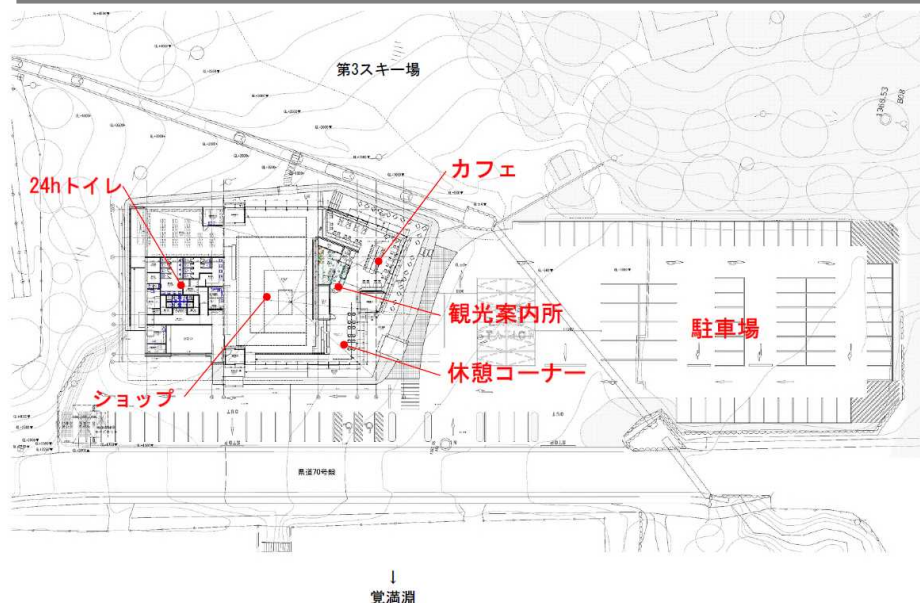
会議の様子



【会議概要】

前回令和5年10月に開催した「あかぎ会議（第8回）」でいただいたご意見を受けて、**実施設計を説明し、意見交換**を行いました。

（仮称）赤城ランドステーションについて（通称：赤城LS）



①（仮称）赤城ランドステーション・インフォメーション棟

- 外観デザインは山の地形に呼応するような伸びやかな屋根の形状となっている。
- 前回のあかぎ会議(10月)の計画より男女2ブースずつのシャワールームを追加。コインロッカーとシャワールームは赤城LSの営業時間内のみ利用可能。
- 入口すぐにデジタルサイネージを設け、カフェの受付カウンターと連続したカウンターの一部に、観光案内所を設けている。
- 休憩スペースの階段は一部分をベンチとして座れるようにし、休憩スペースと一体で利用できるような空間としている。

【赤城LSにかかる質疑応答】

- ◆ テラスや階段のベンチ、カフェについて一般利用者はどこまで使えるのか。
⇒カフェカウンターから先はカフェ利用者のみ、休憩スペースや階段・テラスのベンチは一般利用者でも利用できるような想定である。
- ◆ レクチャーで休憩スペースなどは使えるか。
⇒利用できる。また、会議室もあるため、用途や規模感に応じて選択して利用いただけるような体制を想定している。
- ◆ 除雪のことは考慮されているか。
⇒今のビジターセンターがある部分(駐車場の端)に除雪車で雪を寄せる場所を想定している。建物の屋根は勾配が緩いため、雪を落とさず乗せる想定。入り口部分等は雪止めを設置することによる落雪対策なども行なっている。
- ◆ 雪が自然に落ちるように屋根の傾斜をもっとつけたほうが良いのではないかと。また、軒先に電気ヒーターを入れたほうが良いのではないかと。
⇒雪の荷重は考慮しているが、氷になってその上に雪が溜まっていくような状況でも問題がないか確認する。電気ヒーターは費用面も含めて検討する。
- ◆ 天井が高いが、冬の暖房はどう考えているのか。（-10度にもなる）
⇒基本的には、エアコンと電気式ヒーターを併用して空調効率を高める計画。天井が高いことに対しては、上部に溜まってしまいう空気を掻き回すようなファンを設け、暖かい空気が空間全体に行き渡るような設計としている。



イメージ図



※表は最新内容に修正

② (仮称) 大沼キャンピングフィールド

- サイト数としては100サイト程度を予定。
- エリア全体をカバーできるようにサンタリー棟を3棟設けている。大沼から入ってすぐの場所に受付や食料や備品などを販売する管理棟を計画している。

【大沼CFにかかる質疑応答】

- ◆ 利用者の車はどう止めるのか。
⇒サイトとは別に設ける箇所もあれば、サイト内に車が入れる箇所もある。
- ◆ キャンプ場を整備する場所はどこからどこまでか。
⇒既存のキャンプ場の上、東京福祉大や関東建設の建物の手前の沢より西側から、計画の西端は林間学校のあった文教団地も含めた範囲。
- ◆ トイレはどのくらい設けているか。
⇒およそ200mおきに設置している。基本的に管理等で受付をしたキャンプ場利用者だけの利用を想定している。
- ◆ 大沼湖畔に冬に利用できるトイレがないので、整備してほしい。
⇒北岸側にトイレが必要なのは認識している。今回の計画とは別のため、順番を付けながら対応している。
- ◆ 斜面地なので、特に夏に雨で土が流れていくので気をつけたほうがいい。
⇒各サイトは水勾配を設定し、どう流れるか想定して設計している。
- ◆ 今のキャンプ場園路の整備で、木、楓を伐採してしまうのであれば、なるべく移植する形にしてほしい。
⇒対応できる部分、できない部分を見極めながら対応していく。

★登山道について

- キャンプ場計画エリア内や周辺に4つあり、②と③のルートについては、キャンプ場管理の観点から、ルートの変更や閉鎖できればと考えている。特に②ルートについては、キャンプ場内を横切る形になってしまうため、以下の対応を検討している。皆さんと相談し、どのような落とし所があるか相談したい。
- 第一希望：②ルートを閉鎖して③ルートへ統合
- 第二希望：③ルートから②に合流するようなルートを設け、キャンプ場内を横切らないようなルートとする
- 第三希望：一部キャンプ場内を通るが、看板を設置し、キャンプ場内であることを注意喚起

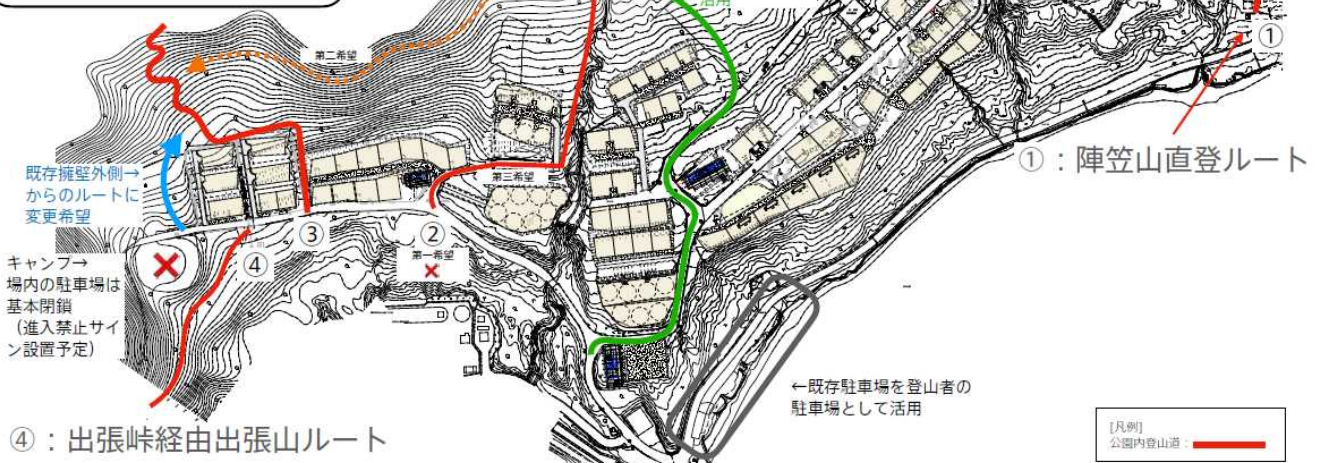


③：出張山直登ルート

[③ルート]設計チームの希望
既存擁壁外側からのルートに変更希望
(図中青矢印)

②：野坂峠直登ルート

[②ルート]設計チームの希望
第一希望：②ルートの閉鎖
→③ルートに置き換え可能か。
第二希望：③ルートで途中②ルートへ合流
第三希望：一部キャンプ場内を通るルート
→既存②ルートを踏襲。注意喚起等の看板を設置する。



④：出張峠経由出張山ルート

【登山道にかかる質疑応答】

- ◆ キャンプ場の利用者も、同じ登山ルートとなるのか。
⇒同じルートを利用させていただく想定。
- ◆ 一般利用者の駐車場はどこになるのか。
⇒大沼北岸駐車場(キャンプ場計画エリア外)を利用させていただく。現状のキャンプ場を閉鎖するため、そこを駐車場として利用することも検討中。
- ◆ 福祉大や関東建設の利用者はどこをどう通るのか。
⇒関係者として通っていただく。入る人は必要最低限にしたい。
- ◆ 一般の人は有料でトイレ使えるか。
⇒今後指定管理者などが決まったら協議していく。
→有料のほうがいいと思う。
⇒一般の方の利用を許可するのであれば、有料の方向で考えている。
- ◆ ③ルートから②ルートに繋げるルートは現実的にできそうか。
⇒今後現場を見ながら確認する。
- ◆ サインをしっかり設置しないと新たなルートができてしまったりする。
⇒サインの費用は見込んでいるため、ルート以外を通らないよう案内を整備していく。

(結論) 県道を除き、キャンプ場内は通らないルートで検討をすすめる

景観ガイドラインについて



- 赤城LS、大沼CFの整備に伴い、乱開発などを防ぐため、県と前橋市、地元が協力し、景観ガイドラインを策定したい。
- 計画としては、1年かけてガイドラインを策定する。あかぎ会議参加者+aでフィールドワーク等を行いながら、一緒に作っていったらと考えている。
- 対象は人工物を想定。赤城のオリジナルカラーを作りまとめていくことを目指す。
- 標識は多言語化も検討。

利用料金について



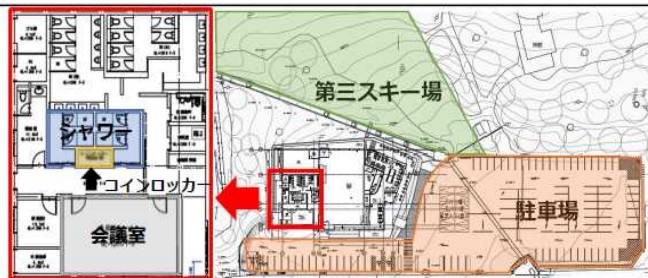
整備する施設の利用料金（案）について

※利用料金メニューの多様化と利用料金幅を持たせることで、**収益を追求した管理運営**

◎算出方法 類似する施設や県既存施設を参考に各利用料金を算出



(仮称) 大沼キャンピングフィールド						
サイト名	区分	電源	数量	単位	条例制定額 (使用料)	最大上限額 (基準額×1.5)
区画サイト	Blue	×	49	1区画1日	7,000円	10,500円
	Red	○	21	1区画1日	8,000円	12,000円
ドッグサイト	Yellow	○	8	1区画1日	12,000円	18,000円
フリーサイト	Green	×	17	1張1日	6,000円	9,000円
トレーラーハウス	Brown	○	5	1軒1日	24,000円	36,000円
合計			100			



(仮称) 赤城ランドステーション			
施設名	単位	条例制定額 (使用料)	最大上限額 (基準額×1.5)
シャワー	分	50円	75円
コインロッカー	1回1日	200円	300円
会議室	時間	630円	945円
第三スキー場	独占利用	1㎡1日	10円
	物販	1㎡1日	740円
駐車場	普通車	時間	100円
	大型車	1台1日	2,000円

※表は最新内容に修正

- 赤城に新たな施設として大沼CFと赤城LSができるため、条例を制定して料金を設定する予定。（料金案は上記のとおり）
- 金額は指定管理者が季節で変えることができ、基準額の1.5倍まで設定可能。
- 駐車料金については普通車1時間まで無料、6時間最大500円で考えている。
- 料金は指定管理者が時期に合わせた値段を設定し、収支計画を出していただく形になるので、今回の金額はあくまで基準としてみてほしい。

覚満淵の木道について

- ・ 既設木道の残っている部分は来年度撤去する。
- ・ 点検をしたところ、腐った部分が見受けられた。夏になると環境学習として小学生が通るため、危ないと考えている。すぐには止めないが、異変や落ちる可能性が有るなど、皆様に周知の上止めると承知してほしい。
- ・ 今年の整備は6月7月に説明会をする。意見交換をしたいため、引き続きお話をさせていただきたい。予算は確定していないが、木道については要望しており、動き出している。
- ・ 啄木鳥橋に関しても2月に一部予算を確保できているほか、R6予算で要望もしている。確定した時点で再度お知らせする。

小沼のトイレについて

- ・ 小沼のトイレはバイオトイレであり、少人数での利用をお願いしていた。
- ・ 小中学生の登山ルートの終点地となっているが、人数が多いとコストがかかるため小沼の駐車場、大型車の利用の規制をしようと考えている。ルートを変えて下水のある大洞地区を終点として使用することを考えている。
- ・ 現在、年間200万円程度かかっており、インフラが整っていない場所のため、ソフト面での対策をしていきたい。

今後のスケジュール

令和6年3月	大沼CFの造成工事2つ及び建築工事を発注
令和6年夏頃	赤城LSの建築工事発注予定
令和6年夏頃	景観ガイドライン動き始め
令和7年春頃	大沼CFオープン目標
令和7年秋頃	赤城LSオープン目標

※設計内容に変更等が生じた場合は、あかぎ会議を開催します。

発行・問合せ先	群馬県 環境森林部 自然環境課 電話：027-226-2876 メール：kanshizen@pref.gunma.lg.jp
---------	---